

第5回東北放射線医療技術学術大会を開催して

第5回東北放射線医療技術学術大会
大会長 山田 金市

第5回東北放射線医療技術学術大会の開催に際しまして、公益社団法人日本放射線技術学会と公益社団法人日本診療放射線技師会をはじめ、多方面より多くのご支援とご協力を賜り、皆様には深く感謝申し上げます。本大会は放射線技術学会東北支部と東北地域放射線技師会が合同で開催する第5回目の学術大会であり、まさに成熟期を迎えております。

参加人数は総登録者数が539名、一般演題125題、市民公開講座102名で昨年を上回る方のご参加をいただきました。誠にありがとうございました。今回、メインテーマを「放射線診療の未来へつなぐ技術・知識・信頼」としました。また、サブテーマとしまして「明日へのがん診療の発展をめざして」とし、最新のがん診療を中心に企画致しました。

山形大学に東北・北海道地区で初となる重粒子線がん治療装置の設置が決定しました。来年度には着工の予定です。これに合わせまして、今回の特別講演は、この開発に中心的に活躍されている山形大学医学部放射線腫瘍学講座の根本先生による、「山形大学における重粒子線治療プロジェクト」に関してご講演をいただきました。重粒子線治療の優位性、最新の高性能で小型、省エネタイプの治療装置の開発についての講演は、会員にとっても興味のある話題です。これからの放射線技師の業務の専門性および重要性を再認識させるものです。また、シンポジウムのテーマを、「がん診療における放射線技術」としました。CT、MRI、血管撮影、放射線治療などいろいろなモダリティから、専門の先生方のご意見をいただき、これから向かう統合的ながん診療について活発な討論がなされました。

また、今大会の特別企画として「医・工・産連携研究の現状と展望」を企画しました。まさに、重粒子線装置の開発がそれに当たる訳ですが、今回は、山形大学医学部と工学部、さらに企業を含めた医・工・産連携研究の現状と展望について、専門の先生方にお話ししていただきました。

また、東北地域放射線技師会企画として、「放射線管理士に求められる活動とは」について、また、技術学会東北支部企画では、「英語スライドセミナー」について行われました。

市民公開講座は山形県の女性技師会企画で2部構成としまして、第1部を「マンモグラフィーはどうして痛いのか？」というタイトルで乳がんの早期発見に必要なマンモグラフィーに対して、その必要性や疑問点について、放射線技師がわかり易く説明しました。一般市民からの質問も対し、会場の専門の技師が答えるという市民と会員が一体化した討論がなされました。

また、第2部では、翌週より上映された「いしゃ先生」という映画の原作者で脚本家のあべ美佳先生にご講演をいただきました。「いしゃ先生」は、戦後無医村だった山形県大井沢村に生涯を医療に捧げた医師・志田周子さんの人生を映画化したものです。山形県放射線技師会は女性技師の割合がとても高く、女性技師のパワーに期待します。

二日間ご参加、ご協力いただいた皆様には、実行委員一同を代表し感謝申し上げます。何かと至らぬところがあつた事をお詫びし、これからの本大会が益々発展し、来年の秋田の大会が盛況に開催されます事をご祈念申し上げます。